

【様式 - 2】

調査・研究概要書

分類： . 地域参画

題名：雪国におけるバスロケーションシステムのあり方

機関・団体名：NPO法人青森ITSクラブ

代表者・連絡先：阿部一能(担当：葛西章史) 青森市第二問屋町4-11-30 TEL 017-762-3190

調査・研究成果の概要

はじめに

NPO法人青森ITSクラブは、青森県における道路交通の安全性、輸送効率、快適性の向上などを図るために、最先端の情報通信技術等を用いて、人と道路と車両とを一体のシステムとして構築する新しい道路交通システム（ITS）について調査・研究し、県民に対して普及・啓発を図るとともに、ITS関連事業を実施することを通じ、県民の生活向上並びに経済、産業の発展に寄与することを目的とするNPO法人である。

平成15年より青森県渋滞対策推進協議会と連携し、渋滞対策の一つの方策として携帯電話へ渋滞ポイントを公表し、渋滞が予想される交差点を県民へ広く紹介することで、道路利用者に渋滞交差点の回避を促し、渋滞緩和につなげようとする新しい取り組みを行っている。また、自動車から路線バスへの転換を促進するためにバスの運行情報を携帯電話で提供するサービスを行うなどITSを活用した事業を展開しており、今回はNPO法人青森ITSクラブが進めている「時間が読めるバス」事業について紹介する。

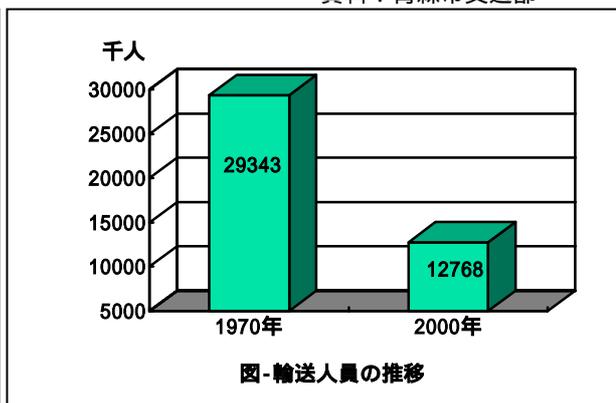
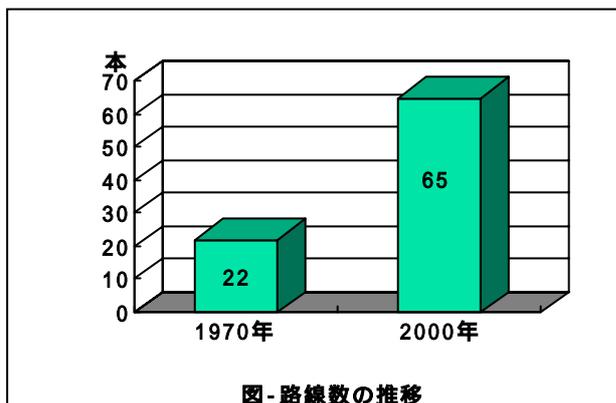
青森市の路線バスの状況

青森市内の公共交通は、青森駅を中心とした鉄道網と路線バスによって形成されている。特に路線バスは、市民の重要な足となっている。

青森市内の路線バスは、青森市営バスが大部分を担っており、弘前方面へは弘南バス、下北方面へは下北交通、その他JRバス、十和田観光バスの都市間バスが主要路線として形成されている。ちなみに、青森市営バスの路線は約59路線、206系統となっており、市内を網の目上に形成しており、通勤・通学、高齢者等の交通弱者の足として重要な役割を果たしている。

しかし、近年のモータリゼーションの進展に伴うバス離れが著しく、バス利用者は年々減少が続いている。このバス離れを食い止めるためには、バス事業者の一層のサービス向上が必要であるが、利用しやすいバスを市民サイド側から提案し、バスの利用促進へつなげていくことも必要であると考ええる。

資料：青森市交通部



## IT Sを活用したバス促進への取組み

当NPO法人は、もともとIT S技術を活用し、青森県民の生活の豊かさの向上や地域経済の発展に向けてこれまで研究を行ってきた。「雪国における公共交通の促進」ということで、市民の立場から利用しやすいバスについてのワークショップをバス関連機関の皆さまや市民の参加を交えて行い、今後のバス交通のあり方について模索した。

IT Sを活用した事業としては、バス利用の促進のためweb対応携帯電話により青森市営バスの時刻表を提供しており、公共交通の利便性を向上させ、利用促進を図ることにより、渋滞緩和につながる取組みを行っている。

NPO法人が主導性を持って公共交通の情報提供を行うのは、全国でも珍しいケースであり、また行政とのパートナーシップのあり方においても新しいケースである。

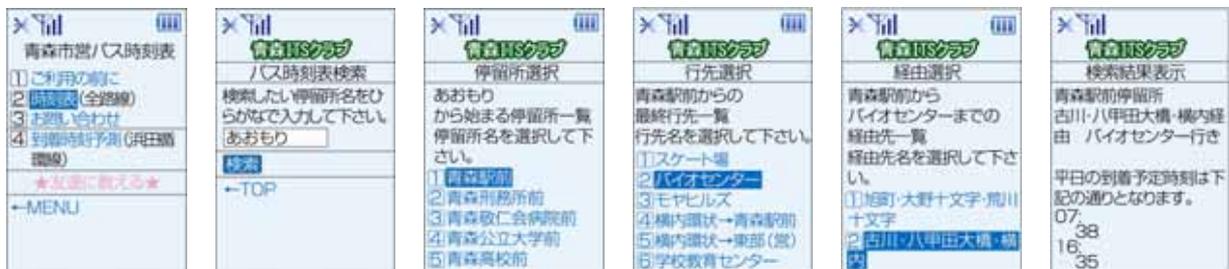


図 - 携帯電話バス時刻検索システム画面フロー

青森河川国道事務所で試験的に行っている青森市営バス浜田循環線におけるバスロケーションシステムのPR・普及活動として、実演をまじえたイベントも行い、利用促進を図ると同時に市民に使われやすいバスロケーションシステムのあり方をバス利用者に対し聞き取りアンケートを行い709人から回答が得られた。またバスロケーションシステムの有効性について、バス事業者側の視点から確認することとして東北地区におけるバス事業者に対しアンケート調査も行った。

今後の発展的なバスロケーションシステム導入に当たってNPOの手法による導入・運営について検討するものである。



写真 - ワークショップ



写真 - イベント

## 今後の取組み

当NPO法人では、まずはじめに公共交通であるバスサービスがある都市は恵まれている都市であると考え、バスをフルに活用したまちづくりは、渋滞の緩和や自然環境にもやさしいまちづくりであると考えている。

特にバス利用の促進のためには、「今までのバス」から「時間が読めるバス」へ再生させる必要がある。この「時間が読めるバス」とは、バスロケーションシステムを活用し、バスの運行情報をバス利用者へ携帯電話等によって提供し、バスを利用しやすい交通手段として文字通り「時間が読めるバス」へ再生するものである。特に青森市のような豪雪都市においては、冬期間のバスは何時バス停に到着するのか全く予測がつかない状況である。そのバスを厳寒の中で待つことは、肉体的、精神的にも非常に辛いものである。このような状況を少しでも改善し、冬期間においても快適にバスを待つ環境を創ることによって、市民がバスを利用しやすくしていくことが求められている。

また、バスの利用が促進されることによって、朝夕の通勤時の交通渋滞緩和へも寄与することが期待される。全国的に高齢化や環境問題が注目されている今日においては、行政だけでなく市民も自家用車から降りてバスに乗るためのしくみづくりが必要であり、中心商店街などの活性化とあわせて、取組みを行っていく必要がある。

路線バスの利便性向上の影響を受ける多様な関係者（バス事業者、沿線の商店街・店舗、行政、道路管理者、バス利用者など）を結び付けることにより、運営経費を捻出すると同時に、新たな付加価値を創造するNPO的ビジネスモデルを今後検討していきたいと考えている。

具体的には、バスの広告スペースへの環境に貢献する企業広告の掲載、バスの位置情報の道路管理者への提供、商店街をはじめとした店舗によるイベントやセールの実施などを連携させるといった方法が考えられる。バス路線で結ばれる複数の地点でイベントを開催するなどといったバス利用者へのサービスも考えられるであろう。

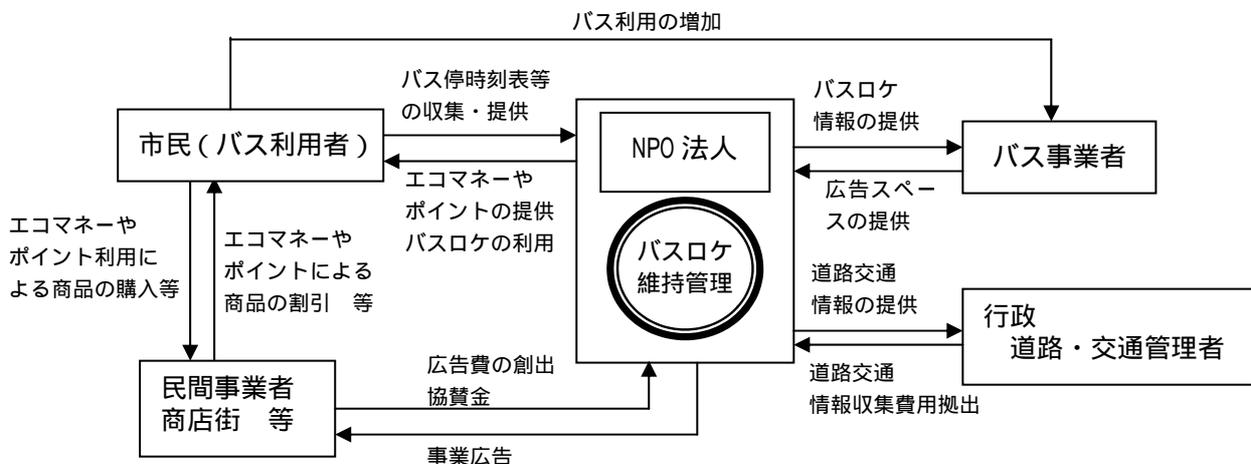


図 - バスロケーションシステムにおけるNPO的ビジネスモデルの提案

**(参考) バスロケーションシステムに関するアンケート調査結果より**

**バス利用者アンケート**

バスロケーションシステムの導入については回答者の9割以上が必要性を認めている。

このように、バス利用の促進と交通渋滞緩和に寄与するバス運行情報の提供は、豪雪都市においては重要な情報であることが、今回実施したアンケート調査結果からも確認することができた。

また、バス運行情報と一緒に情報としては、映画やイベント情報が最も多く、次いでショッピング情報、渋滞情報等になっている。

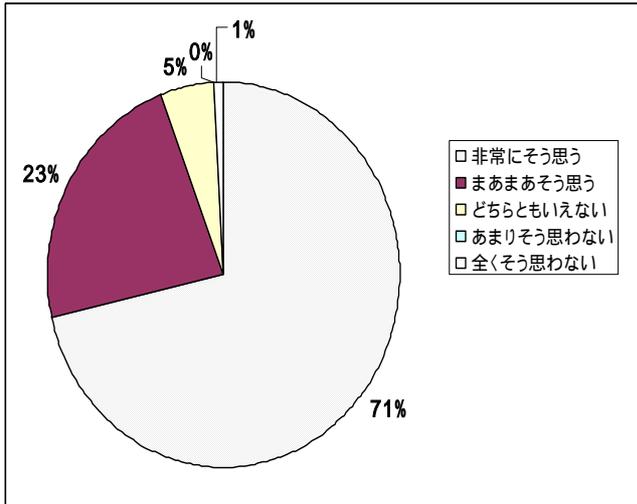


図 - バスロケの導入の必要性について

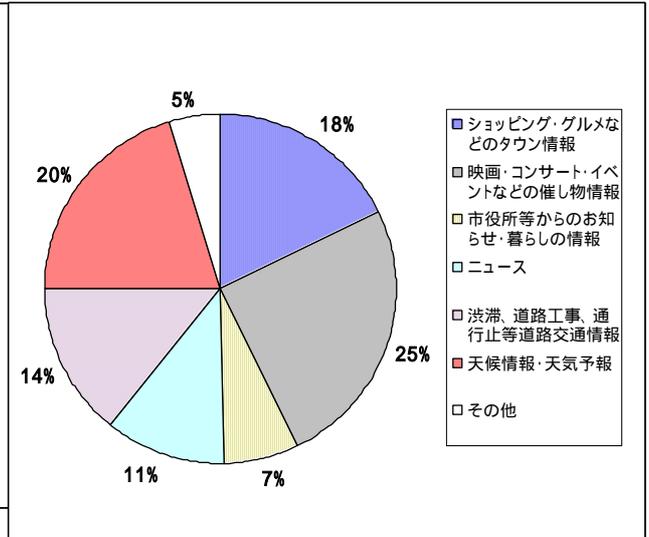


図 - バス運行情報と一緒に欲しい情報

**バス事業者アンケート**

一方、東北地方に路線を開通しているバス事業者は、バスロケーションシステムの導入がサービス向上へつなげると期待しているものの、実際に導入を予定・検討している事業者は4社だけで、導入のためのイニシャルコストとランニングコストが大きな障害となっている。

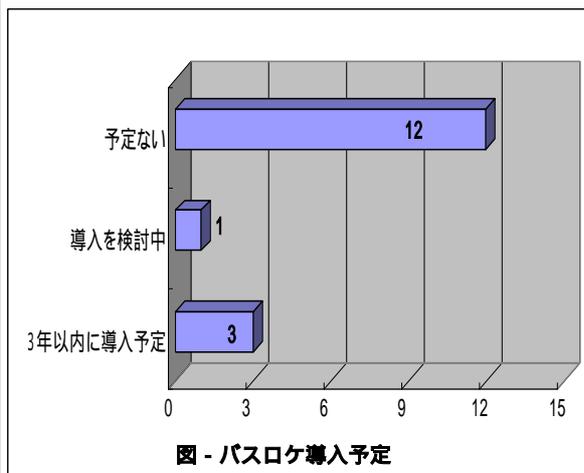


図 - バスロケ導入予定

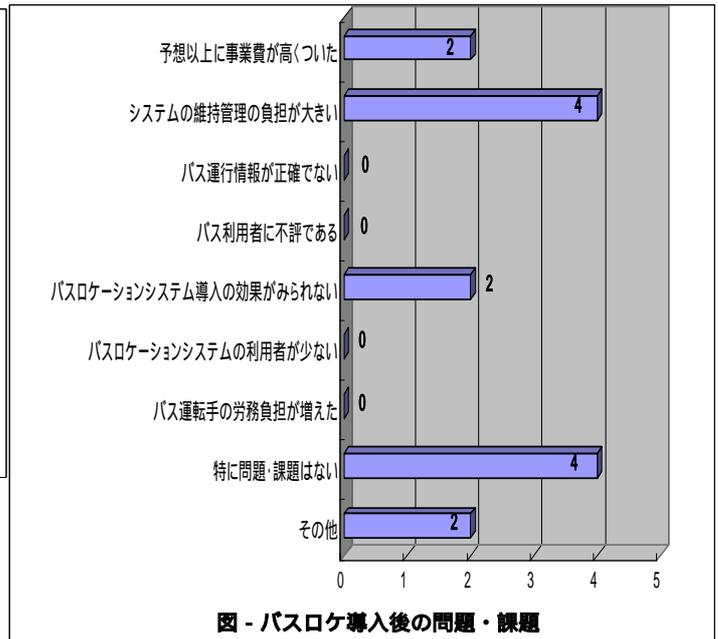


図 - バスロケ導入後の問題・課題